

# 経産大臣賞受賞の除雪機

## フジイコーポレーション 燕市に1台寄付

燕市小池、一般産業機械製造フジイコーポレーション(株)(藤井大介社長)は十二日、燕市の新庁舎で使ってほしいと、同社のスノーロータリー(除雪機)一台を燕市に寄付した。

同社は市役所新庁舎の完成祝いとともに、こしのツバメ・インタスト



寄付した除雪機のパネルを手に吉井取締役と鈴木市長

リアルデザイン・コンクリートで同社の歩行型除雪機「Si912DK」がトップの経済産業大臣賞を受賞したことや、燕市が設けている自治会対象の除雪機購入助成により同社製品も販売につながったことに感謝してのもの。

今回寄付したのも経産大臣賞受賞のSi912DK(メーカー希望小売価格百四十三万六千四百円)で、十二馬力の水冷ディーゼルエンジン搭載の長さ二・一七メートル、幅九十センチ、高さ一・六五メートル、除雪幅も九十センチ。

この日午前十一時、同社の吉井吉次取締役機械事業事業部長・営業部長・商品開発部長など三人が市役所三階の市長室を訪れ、鈴木市長に除雪機

の目録と、Si912DKの写真パネルも一緒に手渡した。市長は「厚志の意に沿い有意義に使わせていただきます」と礼を言ったあと、写真パネルを見ながら「例の賞を取ったものですね」「皆さんの製品が素晴らしい評価を得た。審査員も絶賛していた。この大きさと機能なのに、コストが安い。製造方法に秘密があると思うが、技術が評価された」とたたえた。冬の雪が話題になり、こしも長期予報は大雪と聞いた市長は「我々行政的には困る」と話していたほか、吉井取締役はコンクリートの大臣賞の副賞で二十万円と、もう一つ受賞した乗用草刈り機でも三万円の副賞をいた

だいたいに「私たちがびっくりしました」と振り返っていた。除雪機の現物は十一月ころ市役所に届け、その際、職員に操作方法の指導も同社で行うことになっている。